

おはなしシリーズ

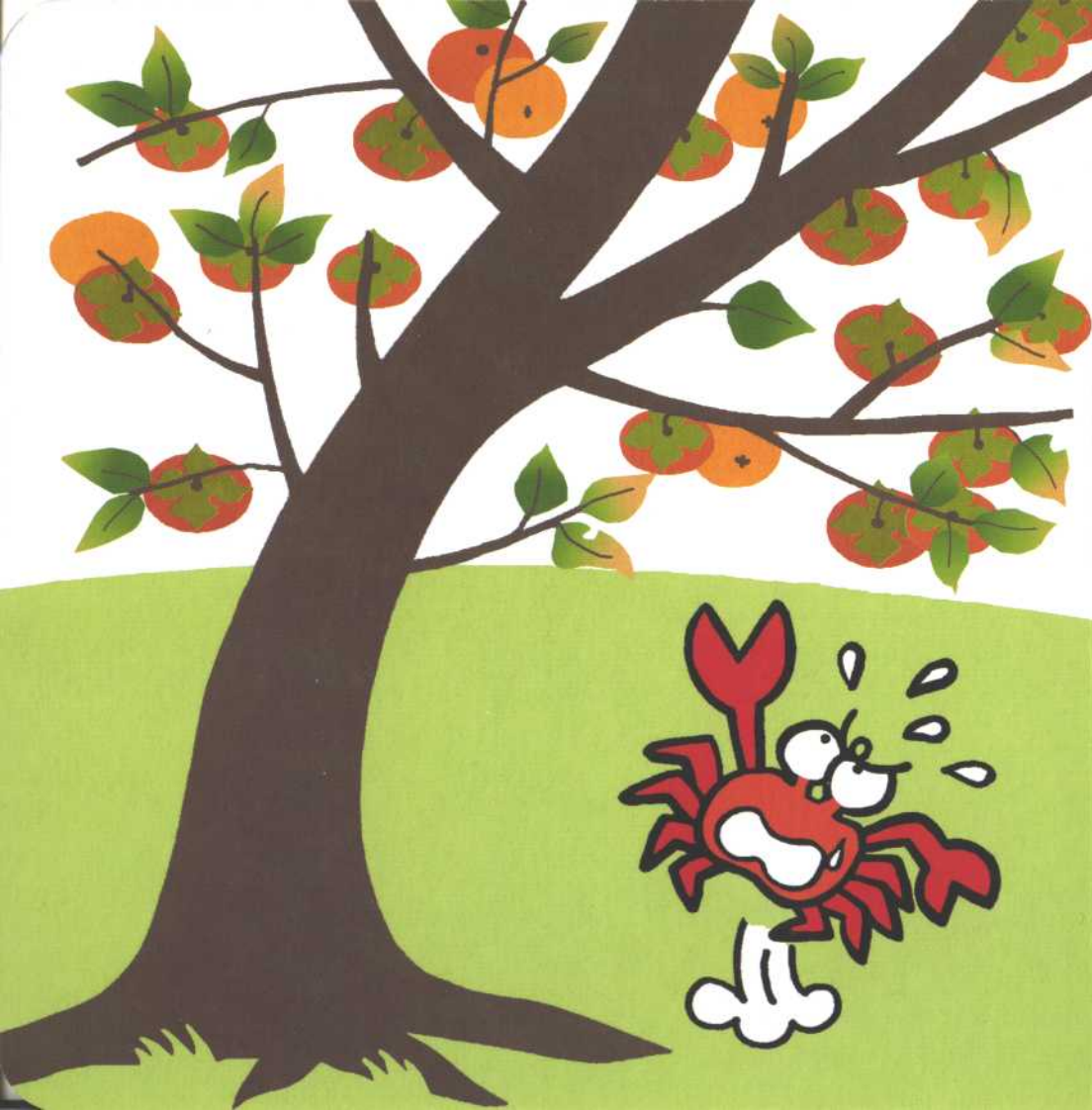
9

# さるかに がっせん





おむすびを ひろった かにに さるが いいました。  
「かきの たねと おむすびを こうかんしようよ。  
たねを うえたら おいしい みが どっさり なるよ。」  
「それは いい。 こうかんしよう。」  
かにが たねを うえて まいにち みずを やると  
かきの みが たくさん になりました。



かには かきを とろうと おもいますが  
つるんと おちて きに のぼることが できません。  
かにが こまっていると さるが やってきました。

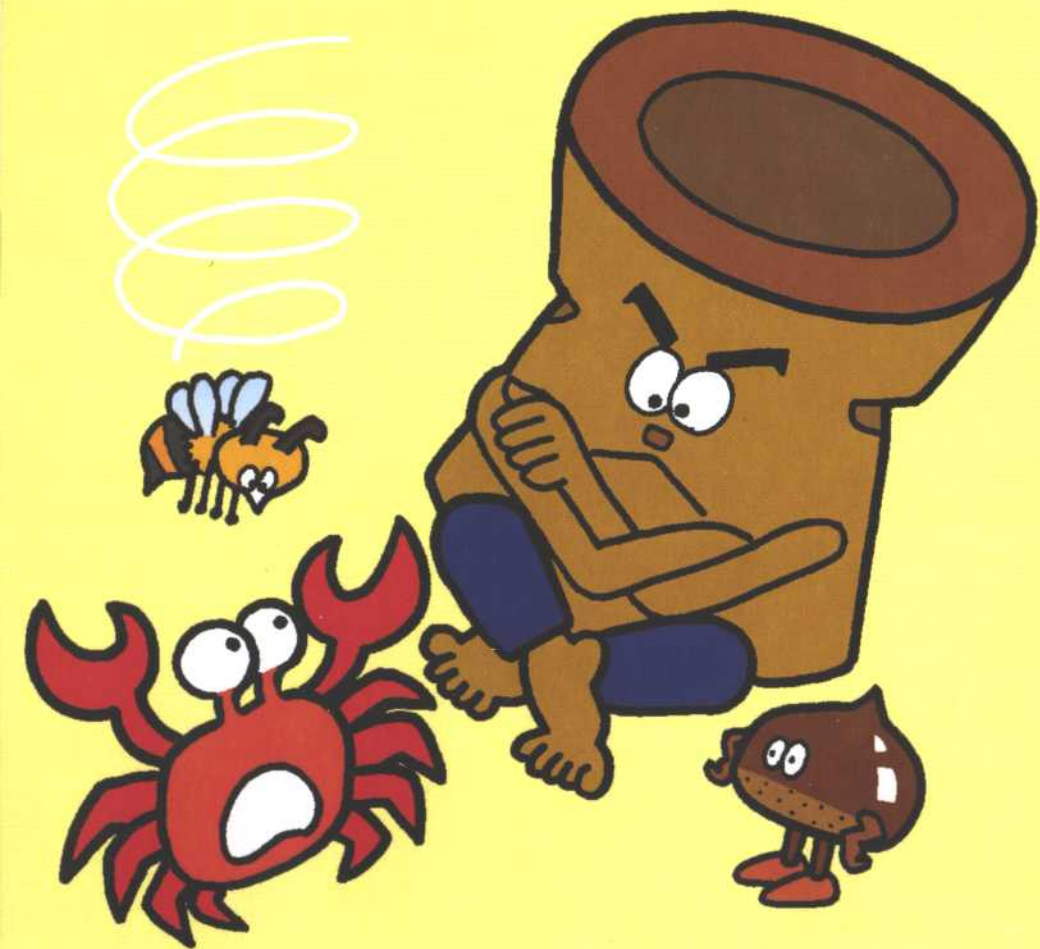




「きのほりは おいらに まかせて。」  
さるは するすると きに のほり  
かきを ぱく ぱく ぱくと いただきます。



「ほくにも ひとつ とっておくれ。」  
かにが おねがいても まだ ぼく ぼく。  
しまい さるは かきを かにに なげつけました。  
かわいそうな かにには いたい いたいと  
なきながら にげていきました。



げんきになった にはは あるひ  
うすと くりと はちに いいました。  
「いっしょに さるの いえに きておくれ。」  
さるが いない あいだに くりは いろりに  
はちと にはは みずがめの ちかくに  
うすは やねのうえに かくれました。

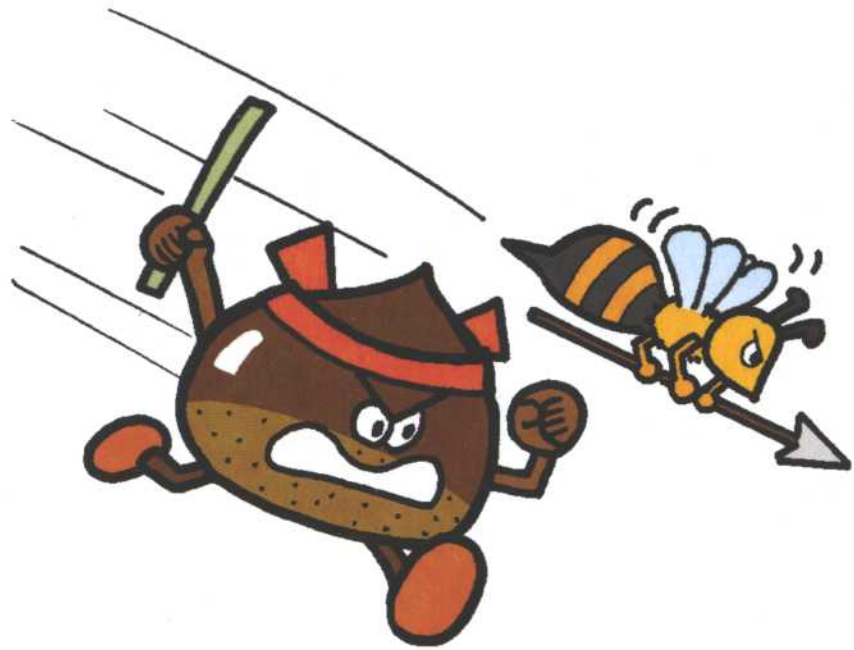


「あー そとは さむかった。」

さるが いろりに あたろうとしたときです。

くりが ぱちんとはじけて さるの かおに あたり

はちが さるの てを ちくり ちくりと さしました。



さるが あわてて そとに できると  
こんどは いしうすが どすーんと おちてきました。  
さいごに かにが さるの あしを はさみで ちょきん。  
「ごめんなさい もう わるさは しません。」  
さるは ないて あやまりました。

